

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校 定時制

重点目標	具体的な取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1 学ぶことのよろこびの実感	(1)	一人一台端末を活用した授業の工夫・改善	一人一台端末の活用の工夫により意欲的に学習に取り組めたと感じた生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A (100%) (昨年度 100%)	成 果：教員のICT活用も活発になり、生徒の授業に対する意欲喚起につながっている。 課 題：少人数ならではの活用方法、一人一台端末活用の優位性を実感できる活用法を探る必要がある。 改善策：校内外の研修や活用事例ウェブサイトを参考に、本校の実態に即した活用方法について研修会を行う。
	(2)	授業内容の工夫を図る校内外の研修の充実	授業に主体的に取り組んだ生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (100%) (昨年度 92.9%)	成 果：例年、中間よりも年度末にポイントが下がる傾向があったが、今年度は最後まで80%以上を維持することができた。 課 題：少人数ながら学習に課題を抱える生徒が在籍し、対応に苦慮する面がある。 改善策：課題のある生徒でも比較的前向きに参加できている授業や取組について全員で情報を共有し、少しでも生徒の主体性を引き出す方策について検討・実践する。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ICTを生徒一人一人の表現力向上に生かしてほしい。 ICTスキルの向上だけでなく、将来に生かされる社会人として大切な基礎力も身に付けてほしい。 少人数であることを生かした、学年を超えた学びをすすめてほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 探求型学習の最後に発表の場を設けて、表現力を磨かせたい。 商業科目のビジネス・コミュニケーション等を学びながら、社会人基礎力を身に付けていく。 教科によっては、コンクール形式で学年を超えて評価を互いにし合う取り組みがあるので、今後も工夫して少人数教育のメリットを生かして生きたい。 			

重点目標	具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）			
2 社会人基礎力の向上	(1) 日常的な挨拶・言葉遣い指導		来校者や職員に対し自ら進んで挨拶をしていると答えた生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A (85.0%) (昨年度 71.4%)	成 果：自ら進んで挨拶できていると答えた生徒が前回より増加した。日頃の教員からの声掛けが功を奏している。 課 題：大きな声で元気よく挨拶ができればなお良いと考えている。 改善策：生徒の個性にも関わってくるので、無理強いせず、挨拶できていることを褒めながら、長期的な展望を持って、より良い挨拶になるよう粘り強く指導を継続していく。			
学校関係者評価委員会の評価					<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は社会に出ても大切なことである。挨拶の必要性について、引き続き指導してほしい。 ・生徒一人一人の実態を考慮しながら、教職員全体で粘り強く取り組んでほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動などを通じて、社会人基礎力を向上させる指導を継続していきたい。 ・生徒に関する課題などを職員間で共有化し、指導を継続していく。 						

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
3	地域愛の育成	(1) 復旧復興活動に係る行事の精選とニーズの把握	体験学習において生徒の参加した割合が A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	A (88.0%) (昨年度 47.4%)	成 果：体験学習（千枚田田植え・稻刈り）に関しては参加率がかなり高く、興味を持って取り組んだ。 課 題：あまり意欲が感じられない生徒が少数ではあるが見受けられる。 改善策：事前学習を積極的に行い、「ふるさと愛」に繋がる指導を粘り強く続けていく。
		(2) 協働的に活動する場面設定の充実	体験学習において協働的に取り組むことができたと感じた生徒が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	B (75.0%) (昨年度 94.2%)	成 果：全般的に体験学習に対して、どの生徒も他の生徒と協力し、真面目に取り組んでいた。 課 題：他の生徒とコミュニケーションを図りながら活動することが苦手な生徒が少し見られる。 改善策：教職員や外部の様々な人々との関わりを持つ機会を与え、時間をかけてゆっくりと地道に指導していく。
4	多忙化改善	(1) 業務の見直し・平準化による多忙感の解消	時間外勤務について月平均で以下の時間を超える教員がいない A：15時間 B：20時間 C：25時間 D：30時間	B (71.4%) (昨年度 83.3%)	成 果：15時間を超えない教職員の割合は7名中5名であった。 課 題：後期に入り全国大会等の県外への生徒引率が、3回続いたこともあり、時間外勤務の増えた教員が一部見られた。 改善策：後期の後半は業務を横断的に平準化し、多忙感の解消に努める。
学校関係者評価委員会の評価		・他の定時制高校の行事はどんなものがあるか。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		・各校とも特色ある学校づくりを推進し、様々な工夫を凝らした行事を実施する。			